

## 海外の話題

# 春節の中国テレビ・コマーシャル

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 森下 純也

少し前の話しになりますが、中国のお正月にあたり、帰省のための大移動が発生する春節休暇（今年は1月31日～2月6日）前後に、中国国営テレビが、家族をテーマにしたコマーシャルを頻繁に放映していました。そのコマーシャルは、年老いた男性が遠く離れた娘から電話を受けるシーンと、男性の実際の生活シーンが交互に写し出されるものでした。

父親は娘に、「お父さんは、友達と毎日楽しく遊んでいるよ。」と言いながら、実際は、広い公園に一人寂しく佇んでいます。また娘が、最近電話に出ない母親の事を心配すると、父親は、「お母さんは今日も友達とダンスに行っているよ。心配なんかする必要無いよ。」と伝えるのですが、実際は、母親は入院しており、見舞いに行った父親が、病院のベット脇でみかんを剥いてあげているシーンが流れます。そして、こういう状況にありながらも、父親は娘に向かって、「仕事は順調かい？仕事は大事だから一生懸命頑張るんだよ。」と励ますという、今思い出しても、目頭が熱くなる内容でした。

また、春節後のニュース番組では、両親が出稼ぎに出ているために、普段は祖父母に預けられている子供が、大好きな母親との別れを察知して泣き叫び、泣き疲れた子供が眠っている間に、後ろ髪を引かれる思いの母親がそっと実家を後にするという家族の様子が放映されました。親が子供の事を第一に考える気持ち、子供が親を慕う気持ちは、日本、中国に限らず、世界共通なのだとしみじみ感じ入ります。

日本と中国で共通だと感じるのは、やはり「容貌」です。中国人に初めて道を聞かれた瞬間は、「えっ？なんで？」と思いましたが、まだ北京に来たばかりである事は勿論ですが、中国人ではない事も、外見だけは分からないのだとすぐに気付きました。その後しばらくは、道を聞かれた時にすぐに対応出来るようにと、「我也不知道。＝私も知りません。」を呪文のように唱えながら歩きましたが、残念ながら、今までのところ、道を聞かれるのは一度限りの経験となっています。街中での、「何となく紛れ込めている」という感覚は、やはり隣国ならではだと思えます。それだけに、両国間に政治問題が無ければ、日本と中国は、どれだけ親密になれるだろうと、現状を残念に感じています。

北京に着任する直前の安倍首相による靖国神社参拝には本当に驚き、尖閣諸島問題のため、日中関係が戦後最悪と言われる程に悪化した2012年のような事態になるのではと心配しました。幸いな事に、同参拝後も、経済面での日中関係は回復傾向が続いていますが、政治的には解決の糸口すら見えない膠着状態となっています。今年初めには日中両首脳がそれぞれ、今年の干支である馬にちなんだ年頭挨拶を行っています。午年の日中関係が、馬のような旺盛な気力（習近平国家主席）によるお互いの努力によって、駿馬の跳躍のように（安倍首相）、改善する事を強く願っています。